

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成31年2月28日 (2019.2.28)

【公表番号】特表2018-517455(P2018-517455A)

【公表日】平成30年7月5日 (2018.7.5)

【年通号数】公開・登録公報2018-025

【出願番号】特願2017-556546(P2017-556546)

【国際特許分類】

A 6 1 L 2/18 (2006.01)

B 0 1 J 19/00 (2006.01)

A 6 1 L 2/02 (2006.01)

A 6 1 L 2/04 (2006.01)

A 6 1 L 2/08 (2006.01)

A 6 1 L 2/10 (2006.01)

A 6 1 L 2/20 (2006.01)

A 6 1 L 101/20 (2006.01)

A 6 1 L 101/44 (2006.01)

【F I】

A 6 1 L 2/18

B 0 1 J 19/00 3 2 1

B 0 1 J 19/00 B

A 6 1 L 2/02

A 6 1 L 2/04

A 6 1 L 2/08 1 0 0

A 6 1 L 2/10

A 6 1 L 2/20 1 0 4

A 6 1 L 101:20

A 6 1 L 101:44

【手続補正書】

【提出日】平成31年1月15日 (2019.1.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

0.01 mm から 6 mm、好ましくは 0.5 mm から 3 mm の低水力直径を有する反応器 1 中で不活化される製品流の連続的なウイルス不活化方法であって、以下のステップ：

a. 不活化される前記製品流の供給、

b. ウイルス不活性化条件を設定すること、

c. 前記製品流と混合しない分離剤を前記製品流に導入して、前記分離剤を分割すること、

d. 前記反応器 1 により成形された滞留セグメント中においてウイルス不活化条件下でステップ c により分割された前記製品流の供給および通過、

e. 前記滞留セグメントからの流出、

を含む方法。

【請求項 2】

ステップ b において、不活化される物質の pH がまだ 4 以下になっていない場合には、前記製品流の pH が 4 以下の値に設定される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

不活化される溶液が、高分子の溶液、好ましくはたんぱく質またはペプチド溶液、特に好ましくは抗体溶液であることを特徴とする、請求項 1 および 2 のいずれかに記載の方法。

【請求項 4】

ステップ f において、前記分離剤が連続的に分離される、請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の方法。